

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：16301

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K21723

研究課題名（和文）ボランティア参加を促すものは何か：フィールド実験による因果関係の推定

研究課題名（英文）What encourages volunteer participation? Causal inference based on field experiments

研究代表者

青木 理奈（Aoki, Rina）

愛媛大学・法文学部・助手

研究者番号：50838638

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,900,000円

研究成果の概要（和文）：第一に、ボランティア活動参加動機についてインタビュー調査を行い、学生の特徴を明らかにした。当初は大学正課や教員の影響が大きいですが、学生達はボランティア活動を継続する中でその社会的意義や学内外の人的交流を重視するようになっていくことが分かった。第二に、正課外ボランティア活動参加動機の涵養について、国際ボランティア活動家の吉椿雅道氏との研究会を重ね、学生の自主性尊重の重要性を確認した。第三に、コロナ禍で遠隔実施された大学正課・準正課活動に取り組む学生達の意欲・動機の継続性や変化に関する意識調査を行い、行動制限環境下でも学内外の人的交流維持が学生の参加意欲・動機の維持に不可欠であることを確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第一に、大学生がボランティア活動を開始する動機と、活動を継続する要因にわけて、その現代の特徴を検討したことがある。高度情報化が進むなかであっても、大学生は正課活動や教員といった大学教育や人間関係に信頼をおく結果になったことは、今後の大学教育や国及び自治体の若者政策を検討するうえでの基盤となるであろう。第二に、コロナ禍で大幅な行動制限が生じた場合でも、大学生にとって種々の手法を用い教育を継続すること、教員および学生同士の交流を維持することの重要性が明らかになった。学生支援の中でも日常的な人的交流の重要性は、今後重視すべき事柄である。

研究成果の概要（英文）：First, we conducted interviews to identify students' motivations for participating in volunteer activities. Initially, the students were greatly influenced by the university's regular courses and professors. Still, as they continued their volunteer activities, they came to value the social significance of their activities and the personal interactions within and outside the university. Second, we held research meetings with Mr. Masamichi Yoshitsubaki, an international volunteer, regarding cultivating students' motivation to participate in out-of-school volunteer activities. We found that respecting students' autonomy is essential. Third, we surveyed the continuity and changes in the motivation of students involved in regular and semi-regular university activities remotely held during the COVID-19 pandemic. We found that maintaining personal interaction on and off campus is essential for keeping students motivated even in a conduct-restricted environment.

研究分野：政策情報科学・教育心理学

キーワード：ボランティア コロナ禍 学生生活

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

ボランティア活動への関与をより強く促す動機は何か。ボランティア活動とは、行政との関係において定義すると、「行政サービスの網からこぼれ落ちる市民のニーズを拾い上げ支援する無償の活動」と言えるだろう。このような活動へと人々を向かわせる動機は何か。その動機により効果的に働きかけ、より多くの人々のボランティア活動を引き出すにはどうしたらよいのか。これらの点はこれまで十分に分析されてきたとは言えない。本研究は、背後にありうる利己的動機を含む様々な動機がボランティア活動への関与に与える効果の解明を、大学生を対象とするフィールド実験により試みる。

2. 研究の目的

本研究「ボランティア参加を促すものは何か：フィールド実験による因果関係の推定」は、ボランティア活動への関与を促す諸動機のうち、より強く参加を促す動機は何であるかを、大学生を対象とするフィールド実験により解明することを目的とする。ボランティア活動を行政サービスとの関係において定義すると、それは「行政サービスの網からこぼれ落ちる市民のニーズを拾い上げ支援する無償の活動」と言えるだろう。こうした役割を果たすボランティア活動へと人々を向かわせる動機は何か。その動機により効果的に働きかけ、より多くの人々のボランティア活動を引き出すにはどうしたらよいのか。本研究は、大学生を対象とするフィールド実験を通じて、ボランティア活動への関与を促す諸動機のうち、人々の参加をより強く促す動機は何であるのかを解明する。

3. 研究の方法

本研究は、大学生を対象とするフィールド実験により遂行する。計画は以下の通りである。

実験計画

1. 先行研究レビュー

先行研究レビューにより、ボランティア活動への関与を促す諸動機の整理を行う。

例：利他的動機、利己的動機、ピア・プレッシャー的動機、等々

2. フィールド実験

実験対象学生を確定する。(研究代表者所属学部 of 全学生を対象として想定。)

対象学生を無作為に2グループに分け、全員にボランティア募集のメールないし手紙を送る。

その際、1グループについてのみ、特定の動機(下記参照)を刺激する文面を加える。

例:(利他的動機)(写真を付けて)社会的弱者の生活の改善には、ボランティアによる継続的な支援が大きな意味を持ちます。

(利己的動機)大手 社をはじめとする企業がボランティア活動への関与を採用にあたって重視すると答えています。

(ピア・プレッシャー的動機)先月は本学の学生 名がこの活動に参加しました。

上記の実験を必要回数繰り返し、結果を統計的検定にかける。学生の無作為グループ化後も残りうる交絡因子の影響を調整する傾向スコア分析の手法もつかう。

3. アンケート意識調査

学生意識の現状および変化について、量的調査としてアンケート意識調査を行う。具体的には、研究代表者所属学部 of 全学生を対象として、ウェブを利用してアンケート調査を行い、結果を統計的検定にかける。

4. 手記分析

学生意識の現状および変化について、質的調査として手記分析を行う。具体的には多くの学生に共通するキーワード・文脈を収集し、その背景および要因、変化について現状を把握する。

5. 座談会発言分析

学生意識の現状および変化について、質的調査として手記分析を行う。具体的には多くの学生に共通するキーワード・文脈を収集し、その背景および要因、変化について現状を把握する。

4. 研究成果

研究成果は、以下の五点である。

第一に、ボランティア活動への動機について、大学生インタビュー調査等の手法を用い、現代の特徴を明らかにすることができた。動機は、大学の正課や教員の影響が大きい、活動を継続

していくなかで、社会的意義や活動における学内外の交流を重視するようになる。これらの成果は2019、2020年度に学術論文と学会発表の中で公表している。

第二に、より多くの学生のボランティア活動動機を把握するために、愛媛大学法文学部を拠点に行われている歴史資料修復ボランティアについて、アンケート調査(2回)を行った。また、半構造化インタビューによる質的調査から得られた知見を反映させつつ、ファーマーズマーケット運営ボランティア募集実験(2回)と福岡正信自然農園稲刈り作業支援ボランティア募集実験(1回)を行った。歴史資料修復ボランティア調査、およびフィールド実験から得られた成果は、2020年の研究会にて報告をし、公表している。

第三に、正課以外のボランティア活動への動機をどう作るかにつき、国際ボランティアを長年行う吉椿雅道氏(CODE)との研究会を重ね、学生の自発性・自主性を尊重することの重要性を確認した。この成果は2020年、2023年に公表している。

第四に、コロナ禍で学生を取り巻く環境が激変したことから、遠隔で行われる大学教育への動機、継続性に関する意識調査を行った。行動制限された中でも学生にとって、学内外の人的交流が不可欠であることを確認した。コロナ禍の学生生活調査は、コロナ禍初期から4年間継続して、愛媛大学法文学部の学生へアンケート調査、手記収集、座談会を開催した。それらの結果を2020年から2023年の4年間公表し続けた。これらは、記録や教訓を収集、保存し、継承していくことができ、次なる厄災の備えるになる貴重な役割を果たせた。

第五に、コロナ禍の大学教育について、他学部との比較として、社会共創学部との共同調査を実施した。また、他大学の状況を把握するため、関東、関西、中部、四国、九州の大学教員との座談会を開催した。さらに、海外の状況を把握するため、スタンフォード大学の学生と座談会や交流会を実施した。一部は2022年に公表し、残りは2024年に公表予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計43件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 福井秀樹, 池貞姫, 青木理奈, 石坂晋哉, 太田響子, 小佐井良太, 鈴木静, 十河宏行, 中川未来	4. 巻 54
2. 論文標題 コロナ禍における法文学部留学生の被災記録の収集と保存 2021年度学生を対象としたアンケート調査の単純集計・クロス集計結果	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集社会科学編	6. 最初と最後の頁 151-186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉・太田響子・池貞姫・十河宏行・中川未来	4. 巻 53
2. 論文標題 コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存 -2021年度学生手記の分析-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集社会科学編	6. 最初と最後の頁 37-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉・太田響子・池貞姫・十河宏行・中川未来	4. 巻 53
2. 論文標題 コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存 -2021年度学生座談会報告書-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集社会科学編	6. 最初と最後の頁 133-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木静・青木理奈・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉・太田響子・池貞姫・十河宏行・中川未来	4. 巻 53
2. 論文標題 コロナ禍における授業提供体制の変化と学生意識-アメリカ・スタンフォード大学大学院生等座談会報告書-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集社会科学編	6. 最初と最後の頁 121-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉・太田響子・池貞姫・十河宏行・中川未来	4. 巻 54
2. 論文標題 コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存 2022年度学生を対象としたアンケート調査の純集計結果	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集社会科学編	6. 最初と最後の頁 97-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木静	4. 巻 53
2. 論文標題 コロナ禍における医療政策の課題と展望 : 高齢者に焦点を当てて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 法の科学	6. 最初と最後の頁 54-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 胡光	4. 巻 420
2. 論文標題 徳島県立博物館リニューアルによせて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地方史研究	6. 最初と最後の頁 63-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 胡光	4. 巻 8
2. 論文標題 四国遍路と食文化 讃岐製糖の新史料をめぐってー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 四国遍路と世界の巡礼	6. 最初と最後の頁 40-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福井秀樹	4. 巻 77
2. 論文標題 マッチング・共変量バランス・因果効果推定バイアス：モンテカルロ・シミュレーションによる分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 公共選択	6. 最初と最後の頁 89-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石坂晋哉	4. 巻 70(2)
2. 論文標題 インドの災害対策	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 61-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉・太田響子・池貞姫・十河宏行・中川未来	4. 巻 52
2. 論文標題 コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存 - 2021年度学生を対象としたアンケート調査の単純集計結果 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集 社会科学編	6. 最初と最後の頁 19-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉	4. 巻 51
2. 論文標題 コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存 - 2020年度学生手記の分析 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集 社会科学編	6. 最初と最後の頁 93-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉	4. 巻 51
2. 論文標題 コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存 - 2020年度学生座談会報告書 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集 社会科学編	6. 最初と最後の頁 117-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木静	4. 巻 22
2. 論文標題 ハンセン病問題から問う新型コロナウイルス感染症対策 国際動向を踏まえた人権保障システムの確立を目指して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 戦争と医療	6. 最初と最後の頁 42-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木静	4. 巻 1134
2. 論文標題 人権の旗を掲げてー高齢者は運動参加の主人公、声をあげよう	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生活と健康	6. 最初と最後の頁 2-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木静	4. 巻 4
2. 論文標題 知的障害のある人、家族、福祉労働者の人権侵害とその責任、地域住民との関係	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 住民と自治	6. 最初と最後の頁 37-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木静	4. 巻 3
2. 論文標題 コロナ禍と高齢者の人権：人生一〇〇年時代の法と政策の展望（シンポジウム 人生一〇〇年：法と政策）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本政治法律研究	6. 最初と最後の頁 245-260
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 胡光	4. 巻 857
2. 論文標題 2018年豪雨における愛媛県の資料保全活動	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 88～95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木静	4. 巻 48号3巻
2. 論文標題 障害基礎年金の現状と課題 障害のある人の権利条約を踏まえた見直しをめざして	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 障害者問題研究	6. 最初と最後の頁 162-169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木静	4. 巻 1864
2. 論文標題 高齢者の人権と国際連合のうごき：コロナ危機にこそ人権保障アプローチの徹底を	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 賃金と社会保障	6. 最初と最後の頁 9-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 静	4. 巻 1864
2. 論文標題 (翻訳) 国連事務総長「政策概要：高齢者への新型コロナウイルス感染症の影響」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 賃金と社会保障	6. 最初と最後の頁 34-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 静	4. 巻 1864
2. 論文標題 (翻訳) 人権高等弁務官と高齢者のあらゆる人権の享受に関する新たな独立専門家とのバーチャル討論会「新型コロナウイルス感染症以降の時代における高齢者の人権」開催：ミシェル・パチエレ国連人権高等弁務官の声明(2020年5月12日)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 賃金と社会保障	6. 最初と最後の頁 46-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 一史, 野澤 和弘, 平野 泰史, 松尾 悦行, 鈴木 静	4. 巻 50(9)
2. 論文標題 (座談会) 相模原障害者殺傷事件の真相を探る 津久井やまゆり園と運営法人支援の実態と殺傷事件の背景	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 創	6. 最初と最後の頁 84-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 一史, 野澤 和弘, 平野 泰史, 松尾 悦行, 鈴木 静	4. 巻 50(8)
2. 論文標題 (座談会) ロフトプラスワン オンライン座談会 相模原障害者殺傷事件で今なお問われているもの	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 創	6. 最初と最後の頁 38-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 一史 , 西角 純志 , 篠田 博之 , 鈴木 静	4. 巻 50 (6)
2. 論文標題 (座談会)相模原障害者殺傷事件のその後 やまゆり園検証委報告と相模原事件の本質	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 創	6. 最初と最後の頁 54-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shinya Ishizaka	4. 巻 1
2. 論文標題 Glocalization of Natural Farming: A Case Study of India	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 GLOCAS Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石坂晋哉	4. 巻 50
2. 論文標題 福岡正信とインド 自然農法のグローバル化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集 社会科学編	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 胡光	4. 巻 6
2. 論文標題 新発見の遍路日記「四国順拝みちの日記」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 四国遍路と世界の巡礼	6. 最初と最後の頁 61-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 胡光	4. 巻 295
2. 論文標題 四国遍路は世界遺産になりうるか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ひめぎん情報	6. 最初と最後の頁 20-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福井秀樹・青木理奈・石坂晋哉	4. 巻 19
2. 論文標題 学生ボランティア活動のインセンティブ - 先行研究の概観と試行フィールド実験からの教訓 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大学教育実践ジャーナル	6. 最初と最後の頁 65-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福井秀樹	4. 巻 64
2. 論文標題 複数空港地域におけるペリメーター規則の効果	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 交通学研究	6. 最初と最後の頁 83-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木静・青木理奈・小佐井良太・福井秀樹・石坂晋哉	4. 巻 49
2. 論文標題 吉椿雅道講演『学生が被災地に関わる意味～防災・ボランティアから考える～』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集社会科学編	6. 最初と最後の頁 99-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉	4. 巻 50
2. 論文標題 コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存 ―学生を対象としたアンケート調査の単純集計結果―	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集社会科学編	6. 最初と最後の頁 37-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木 理奈・鈴木 静・小佐井 良太・福井 秀樹・石坂 晋哉	4. 巻 19
2. 論文標題 自主性育成と大学教育 ボランティア活動を行う学生へのインタビュー調査等からの一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大学教育実践ジャーナル	6. 最初と最後の頁 73-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青木理奈・小佐井良太・鈴木静	4. 巻 48
2. 論文標題 学生ボランティア組織の現状と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集社会科学編	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideki Fukui & Koki Nagata	4. 巻 132
2. 論文標題 How do passengers react to airlines' overbooking strategies? Evidence from the US airlines	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Transportation Research Part A: Policy and Practice	6. 最初と最後の頁 242-255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.tra.2019.11.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 福井秀樹	4. 巻 51
2. 論文標題 政策分析を通じた評価手法 航空行政を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 評価クォータリ	6. 最初と最後の頁 16-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福井秀樹	4. 巻 39
2. 論文標題 空港発着枠規制の解除は航空運賃にどのような効果を及ぼすのか？ 米国ニューアーク空港発着枠規制解除の分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Nextcom	6. 最初と最後の頁 4-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 胡光	4. 巻 595
2. 論文標題 西日本豪雨における愛媛県の資料保全活動	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛媛県神社庁報	6. 最初と最後の頁 5~6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 胡光	4. 巻 422
2. 論文標題 本山寺の開帳	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 へんろ	6. 最初と最後の頁 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 胡光	4. 巻 19
2. 論文標題 山車という方言	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 松山道前会	6. 最初と最後の頁 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木静・上山直人	4. 巻 46(1・2合併号)
2. 論文標題 高校修学と生活保護 福島市給付型奨学金収入認定訴訟に焦点を当てて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛媛法学会雑誌	6. 最初と最後の頁 81-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木静	4. 巻 12
2. 論文標題 国連・第10回高齢化に関するワーキンググループ会議報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 第10回国連高齢化に関する会議参加報告書	6. 最初と最後の頁 5-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計54件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 14件)

1. 発表者名 鈴木静
2. 発表標題 コロナ禍における健康権保障と医療、福祉従事者の課題
3. 学会等名 日本法政学会第137回総会及び研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木静
2. 発表標題 大学における障害学生支援の課題
3. 学会等名 第101回大阪障害者センター研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 四国遍路と食文化
3. 学会等名 四国遍路と世界の巡礼研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 世界の巡礼道の概要 四国遍路を中心に
3. 学会等名 日欧シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 四国遍路と世界の巡礼
3. 学会等名 愛媛大学文系シンポジウム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hideki Fukui
2. 発表標題 Managing Multiple Airport Regions via Perimeter Rules: An Empirical Analysis
3. 学会等名 13th World Congress of the RSAI (Regional Science Association International) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hideki Fukui, Achim I. Czerny, Hao Lang
2. 発表標題 Managing Multiple Airport Regions via Perimeter Rules: A Theoretical and Empirical Analysis
3. 学会等名 Annual Conference of the International Transportation Economics Association (ITEA) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hideki Fuku
2. 発表標題 Glocalization and Nationalism (Discussion)
3. 学会等名 IPSA 26th World Congress of Political Science (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hideki Fukui, Achim I. Czerny, Hao Lang
2. 発表標題 Managing Multiple Airport Regions via Perimeter Rules: A Theoretical and Empirical Analysis
3. 学会等名 Air Transport Research Society 24th World Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福井秀樹
2. 発表標題 ペリメーター規則による複数空港地域の管理の研究
3. 学会等名 航空政策研究会 月例研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福井秀樹
2. 発表標題 マッチング・共変量バランス・因果効果推定バイアス：モンテカルロ・シミュレーションによる分析
3. 学会等名 応用地域学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福井秀樹
2. 発表標題 マッチング・共変量バランス・因果効果推定バイアス：モンテカルロ・シミュレーションによる分析
3. 学会等名 公共選択学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 折戸洋子、鈴木静、崔英靖、山崎竜弥、村田潔
2. 発表標題 COVID-19に対するシニア世代の情報行動
3. 学会等名 日本情報経営学会第81回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木静
2. 発表標題 コロナ禍における国連動向と高齢者の人権保障 - 政策概要および独立専門家の指摘と国内政策の課題 -
3. 学会等名 日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第52回岡山大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木静
2. 発表標題 知的障害のある人を対象にした入所施設のケアの質に関する現状と課題 - 津久井やまゆり園殺傷事件を契機にケアの質改善に取り組んだ施設を例に -
3. 学会等名 日本社会福祉学会第69回秋季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木静
2. 発表標題 高齢者世帯規模の減少と高齢者の人権保障の課題 コロナ禍に着目して
3. 学会等名 第18回日中韓居住問題国際会議（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木静
2. 発表標題 コロナ禍における医療政策の課題と展望 高齢者に焦点をあてて
3. 学会等名 民主主義科学者協会法律部会21年度学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 コロナ禍が歴史資料を襲う / 大洲古学堂の保存修復
3. 学会等名 全国史料ネット研究交流集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 明治維新と松山の寺社
3. 学会等名 愛媛大学文系研究センター合同シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ishizaka Shinya
2. 発表標題 Natural Farming and Religions in India
3. 学会等名 The Sixth Biennial Conference of East Asian Environmental History (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石坂晋哉
2. 発表標題 愛媛から世界へ 福岡正信の自然農法
3. 学会等名 令和3年度 中予コミュニティ・カレッジ「国際理解講座」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ishizaka Shinya
2. 発表標題 Glocalization of Natural Farming and Nationalism
3. 学会等名 26th IPSA World Congress of Political Science (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ishizaka Shinya
2. 発表標題 Glocalization of Natural Farming and Regional Development
3. 学会等名 13th World Congress of the RSAI (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木静
2. 発表標題 コロナ禍における国連の動向(高齢・障害を中心に)
3. 学会等名 新第92回大阪障害者センター研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 折戸洋子、村田潔、鈴木静
2. 発表標題 福祉分野におけるBMIの可能性と倫理的課題 - 障がい者の利用を目指したサイコネシス実験等に基づく考察
3. 学会等名 日本社会福祉学会第68回秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木静
2. 発表標題 コロナ禍と高齢者の人権ー日本高齢者人権宣言から国連高齢者人権条約へー
3. 学会等名 日本政治法律学会第6回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 四国遍路と世界遺産
3. 学会等名 静岡大学公開講座
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 高松松平家の家産経営と地域社会
3. 学会等名 災害文化と地域社会形成史研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 コロナ禍が歴史資料を襲う
3. 学会等名 全国史料ネット研究交流集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福井秀樹・青木理奈・石坂晋哉
2. 発表標題 学生ボランティア活動のインセンティブ：フィールド実験による検証
3. 学会等名 PC Conference (CIEC コンピュータ利用教育学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福井秀樹
2. 発表標題 複数空港地域におけるペリメーター規則の効果
3. 学会等名 日本交通学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福井秀樹
2. 発表標題 アメリカ航空産業の現状と今後の展望 / COVID-19と日米欧の航空業界
3. 学会等名 運輸政策コロキウム～ワシントンレポート ～(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木理奈, 鈴木静, 小佐井良太, 福井秀樹
2. 発表標題 自主性育成と大学教育 ボランティア活動を行う学生へのインタビュー調査から
3. 学会等名 PC Conference (CIEC コンピュータ利用教育学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 青木理奈
2. 発表標題 学生ボランティア組織間取りの分析視覚と先行研究
3. 学会等名 「ボランティアの参加を促すものは何か」科学研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hideki Fukui
2. 発表標題 Slot hoarding: do carriers deliberately underutilize scarce resources at congested airports?
3. 学会等名 Annual Conference of the International Transportation Economics Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideki Fukui
2. 発表標題 Slot hoarding: do carriers deliberately underutilize scarce resources at congested airports?
3. 学会等名 Air Transport Research Society 23rd World Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福井秀樹
2. 発表標題 ボランティア募集試行実験の結果について
3. 学会等名 「ボランティアの参加を促すものは何か」科学研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小佐井良太
2. 発表標題 学生ボランティア組織間取りと考察：今後の研究に向けて
3. 学会等名 「ボランティアの参加を促すものは何か」科学研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shinya Ishizaka
2. 発表標題 Quest for a Non-exclusive Politics
3. 学会等名 International Convention of Asia Scholars 11 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinya Ishizaka
2. 発表標題 Glocalization of Natural Farming
3. 学会等名 48th Annual Conference on South Asia, Madison (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石坂晋哉
2. 発表標題 ボランティアの利己的動機について
3. 学会等名 「ボランティアの参加を促すものは何か」科学研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 歴史資料修復ボランティアに関するアンケート結果
3. 学会等名 「ボランティアの参加を促すものは何か」科学研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 西日本豪雨が歴史資料を襲う（ポスターセッション）
3. 学会等名 全国史料ネット研究交流集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 四国遍路の価値と世界文化遺産登録に向けた課題
3. 学会等名 「四国遍路を世界遺産に」国際シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 松尾芭蕉の時代の旅人たち
3. 学会等名 文系研究センター開設記念合同シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 大洲八幡神社文書と祭礼の歴史的意義
3. 学会等名 大洲八幡神社祭礼調査報告会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 美術工芸品をはじめとする動産文化財の調査とレスキュー
3. 学会等名 日本建築士会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 讃岐の洋学
3. 学会等名 種痘研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 西日本豪雨における愛媛県の資料保全活動
3. 学会等名 西日本大学協議会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 愛媛県における資料保全活動の成果と課題
3. 学会等名 歴史資料ネットワーク総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 明治維新と四国遍路
3. 学会等名 巡礼遍路研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 国府叢書の歴史的背景
3. 学会等名 今治史談会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 四国遍路から見た明治150年
3. 学会等名 西南四国歴史文化研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木静
2. 発表標題 学生ボランティア組織への支援（吉椿雅道氏講演会の実施）について
3. 学会等名 「ボランティアの参加を促すものは何か」科学研究会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計17件

1. 著者名 胡光ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 創風社出版	5. 総ページ数 210
3. 書名 四国遍路と世界の巡礼（上）－最新研究にふれる八十八話－	

1. 著者名 佐藤史郎・石坂晋哉（編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 500
3. 書名 現代アジアをつかむ 社会・経済・政治・文化 35のイシュー	

1. 著者名 胡光ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 石鎚黒茶製造技術調査報告書	5. 総ページ数 150
3. 書名 愛媛県西条市教育委員会	

1. 著者名 胡光ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 地域歴史文化継承ガイドブック	5. 総ページ数 247
3. 書名 文学通信	

1. 著者名 胡光ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新居浜市の歴史	5. 総ページ数 128
3. 書名 新居浜市総務部市史編さん室	

1. 著者名 金川めぐみ編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 280
3. 書名 福祉政策と人権	

1. 著者名 古橋エツ子編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 214
3. 書名 新・初めての社会保障論	

1. 著者名 鈴木静編他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 511
3. 書名 社会保障裁判研究 : 現場主義・創造的法学による人権保障?	

1. 著者名 石坂晋哉	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Natural Farming Today 3	5. 総ページ数 36
3. 書名 愛媛大学リサーチユニット「グローバル地域研究」	

1. 著者名 川岡勉・西耕生・胡光・中川未来・青木亮人・モートン常慈・竹川郁雄ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 283
3. 書名 四国遍路の世界	

1. 著者名 石坂晋哉	4. 発行年 2020年
2. 出版社 愛媛大学リサーチユニット「グローバル地域研究」	5. 総ページ数 26
3. 書名 Natural Farming Today 2	

1. 著者名 胡光・佐藤孝之・三村昌司他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 近世・近現代文書の保存・管理の歴史	5. 総ページ数 338
3. 書名 勉誠出版	

1. 著者名 胡光・橋詰茂他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 戦国・近世初期西と東の地域社会	5. 総ページ数 515
3. 書名 岩田書院	

1. 著者名 胡光・大本敬久・高嶋賢二他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大洲八幡神社祭礼総合調査報告書	5. 総ページ数 280
3. 書名 大洲市教育委員会	

1. 著者名 胡光・大本敬久他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 四国・愛媛の災害史と文化財レスキュー	5. 総ページ数 136
3. 書名 愛媛県歴史文化博物館	

1. 著者名 鈴木静他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本高齢期運動サポートセンター	5. 総ページ数 46
3. 書名 人生100年時代の社会保障と高齢者の人権確立を目指して	

1. 著者名 鈴木静他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 208
3. 書名 いのちを選ばないでーやまゆり園事件が問う優生思想と人権	

〔産業財産権〕

〔その他〕

愛媛資料ネット http://snet.ll.ehime-u.ac.jp/ 愛媛大学グローバル地域研究ユニット http://glocas.net/index.html 愛媛資料ネット http://snet.ll.ehime-u.ac.jp/ 愛媛大学グローバル地域研究ユニット http://glocas.net/index.html コロナ禍の学生調査 https://covid19survey.ll.ehime-u.ac.jp/
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	福井 秀樹 (Fukui Hideki) (00304642)	愛媛大学・法文学部・教授 (16301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小佐井 良太 (Kosai Ryota) (20432841)	愛媛大学・法文学部・教授 (16301)	
研究分担者	石坂 晋哉 (Ishizaka Shinya) (20525068)	愛媛大学・法文学部・教授 (16301)	
研究分担者	胡 光 (Ebesu Hikaru) (50612644)	愛媛大学・法文学部・教授 (16301)	
研究分担者	鈴木 静 (Suzuki Shizuka) (80335885)	愛媛大学・法文学部・教授 (16301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関